『備後国府』に関連する主な遺跡

備後国府とは？

今から約 1300 年前、国家の仕組みが整備されるなか、全国は約 60 の「国」（今でいう県）に分けられ、その国ごとに役所がおかれました。

「備後国府」とは、「備後国」を治める役所が置かれた場所のことです。国府には、都から派遣された「国司」が儀式を行う「政庁」を中心に、事務を行なう庁舎や、ものを造る工房、税を収める倉庫、役人の宿舎、食事を用意する調理場など多くの施設が建ち並んでいました。備後国府では約 600 人の人々が働いていたと云われています。

備後国府は、奈良・平安時代の約 500 年の間、備後地域の政治・経済・文化の中心地として栄えていました。

平安時代中頃に編纂された『倭名類聚抄』には、「備後国のなかには 14 の郡、62 の郷、3 つの駅家が置かれ、国府は芦田郡におかれていた」と記録されていますが、具体的な位置などは示されていませんでした。

昭和 57（1982）年から、広島県により、備後国府の場所を探す発掘調査が府中市で行われ、出口町から府中町・元町・鵜飼町までの芦田川北岸の山寄せ一帯に、国府に関連する遺構や遺物が発見されました。

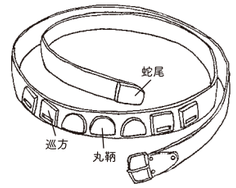
そして、その成果を引き継いで、府中市教育委員会が元町を中心に調査を進めた結果、「ツジ遺跡」や「元町東遺跡」が国府の中心部に近い地区ではないかと推定されています。

ツジ遺跡・元町東遺跡…国府の官庁街？

詳しくは中ページへ

ツジ遺跡・元町東遺跡は、備後国府の中心部に近いと考えられている遺跡です。

東西南北に主軸を合わせて整然と並ぶ、大型の掘立柱建物が多く見つかっています。国府の曹司（役所）や国司の館（国司の邸宅）と推定されます。また、役所の施設を区画していたと考えられる溝もみつかりました。硯や役人のベルト飾りなど古代の役所に関係するものや緑釉陶器といった当時の高級品が多くみられるほか、ガラス小玉を入れた奈良三彩の小壺や銅製の印鑑など、貴重な遺物が出土しています。



金龍寺東遺跡…国司の館跡？

金龍寺東遺跡は、国司の館が想定される遺跡です。奈良時代には大型の掘立柱建物が並び、平安時代には、北側に瓦葺の礎石建物が建てられ、南側に庭園の池が広がっていました。唐三彩や緑釉陶器などの高級品や墨書土器・硯などが出土しています。

西側には、伝吉田寺跡（広島県史跡）があります。伝吉田寺は、備後南部では最も早い時期に都の文化を取り入れて建てられた寺で、備後国府や金龍寺東遺跡との関連が注目されます。

金龍寺東遺跡　板壁付掘立柱建物

伝吉田寺跡出土
人面戯画瓦

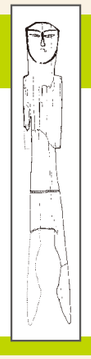
金龍寺東遺跡出土　唐三彩

金龍寺東遺跡出土　鬼瓦

鳥居遺跡…古代の呪い？

工事中に、木製の人形が出土しました。人形には、顔が描かれており、病気などの災いをお祓いする儀式に「まじない札」として使われたものと考えられています。

国府に暮らしていた、当時の人々の姿や願いが感じられます。



前原遺跡…古代山陽道の芦田駅家跡？

前原遺跡は、古代山陽道の駅家（駅館）と考えられる遺跡です。掘立柱建物から礎石建物に建て替えられた巨大な建物跡などが確認され、大量の瓦が出土しています。

駅家は、官道に沿って一定の間隔に置かれていた施設のことです。当時、都と九州の大宰府を結ぶ山陽道は最も重要な路線とされ、駅館は、朱塗りの柱、漆喰の壁に、瓦が葺かれた、豪華な建物でした。

前原遺跡　大型建物

前原遺跡出土　軒瓦

前原遺跡出土　土馬

出土品を見に行こう！

府中市歴史民俗資料館

備後国府の貴重な出土品を展示し、府中市の歴史を解説しているほか、当時の衣裳も復元展示しています。国府衣裳の試着など、古代体験イベントも開催中です。

☎ 0847（43）4646